



2年 SSHサイエンスツアー 1日目

筑波大学研究室訪問（数理解物質科学研究科・生命環境科学研究科）

7月26日(月)～28日(水)の2泊3日で、SSHサイエンスツアーが実施され、2年環境科学科の71名が参加しました。今回の研修では、関東方面の研究機関を中心に見学し、高度な研究内容を学ぶことで、科学に関する興味・関心をより一層深め、グローバルな視野と科学的な思考をもって実践的に問題を解決していく能力を身につけることを目的としています。

1日目は、筑波大学大学院(数理解物質科学研究科と生命科学科)の11の研究室を、グループに分かれて訪問しました。数理解物質研究科は、理学および工学両分野の博士課程研究科の再編により、平成12年度に新設された博士課程研究科です。こちらの研究科では、急激に変化する新しい時代に柔軟に対応できる基礎から応用まで広い視野と優れた研究能力を備えた研究者高度専門職業人を養成することを目的とし、7専攻(数学専攻、物理学専攻、化学専攻、物質創成先端科学専攻、電子・物理工学専攻、物性・分子工学専攻、物質・材料工学専攻)に分かれていました。また、生命環境研究科は、地球と生命と環境に関わる生命環境科学の基礎・応用など、多様な分野で活躍できる研究者と高度職業人の養成を目的とし、研究・教育がなされています。

見学させていただいた研究室

数理解物質科学研究科

- ①片沼伊佐夫先生(電子・物理工学専攻、プラズマ研究センター勤務)
- ②新井達郎先生(化学専攻)
- ③池田博先生(物性・分子工学専攻)
- ④富田茂夫先生(電子・物理工学専攻)

生命科学科

- ⑤小幡谷英一先生(国際地縁技術開発科学専攻)
- ⑥奥野員敏先生(生物圏資源科学専攻)
- ⑦藤村達人先生(国際地縁技術開発科学専攻)
- ⑧星野貴行先生(生命共存科学専攻)
- ⑨本田 洋先生(生物圏資源科学専攻)
- ⑩柳澤 純先生(生物機能科学専攻)
- ⑪戒能洋一先生(生物圏資源科学専攻)



参加生徒の感想より

「キャンパスが広がった。教授と学生の距離が近く、研究が好きなお人にはとてもよい環境だと思った。」
 「害虫の駆除には、農薬を使用するだけでなく、生物の性質を利用する方法もあることを知り、おもしろいと思った。」
 「講義内容は非常に難しく、理解するのに必死だったけれど、実験を交えて分かりやすく説明していただいたので、楽しく学ぶことができました。」
 「私たちの身の回りにはたくさんの光化学が関係しているのだと気づいた。植物が季節を知ることができる原理がとてもおもしろいと思いました。今まであまり興味がありませんでしたが、今回の研修で興味をもちました。」
 「昆虫学を研究していくということは、ただ昆虫の生態を知るためではなく、人間が生きていくための可能性を広げていくための学問だということがわかった。」



「私たちの生活に密着した“木材”が題材であったため、考えたり想像しやすかったです。木の性質をみんなが理解して、正しく使うことにより、長く強く使うことができる大切な資源であり生き物であることを改めて感じました。」
 「“低温部門”と聞いてあまり想像できなかったけれど、実験を見せていただき、とてもよく分かりました。特に、液体窒素で生卵を目玉焼きのような状態にできることに驚いた。」

当日の夜はグループ別に学んだことをまとめ、発表しました。

